

甲斐源氏 やすだよしさだ 安田義定の足跡をたどる

所要時間(往復)
徒歩 6時間
車 1時間

山梨市

源平合戦の初期、安田義定は平氏方に勝利し、その後も富士川の戦いや一ノ谷の戦いなどで活躍した。しかし、鎌倉幕府初代将軍となった源頼朝は、強い力を持つ安田氏を警戒するようになる。牧荘などを中心に峡東一帯を統治した義定だったが、息子がささいな罪で処刑され、所領を没収された後、反逆の企てがあるとして自害に追い込まれた。このような最期を遂げた義定だが、現在も峡東地域には義定に関連する史跡や言い伝えなどが残り、その足跡をたどることができる。

- ① 浄居寺城跡
安田義定が築いたと伝わる。その後、二階堂氏や大村氏が拠点とした。西側には土塁や櫓台が残っているが、徳川家康の修築によるものとされている。
- ② 普門寺
小田野城の麓に建つ。安田義定が開基となり建久年間(1190、99)に開かれたと伝えられる。本尊である木造薬師如来座像は平安時代に作られたもので、県指定有形文化財。同時期に造られたとされる木造地藏菩薩立像は山梨市指定有形文化財。
- ③ 小田野城跡
おだのしょうあち
安田義定が築いた要害城と伝えられる。山頂には段々状の郭が、屋根には堀切が造られ、麓には、御所跡や城下、馬場など城に関連した地名が残る。山梨市指定史跡。



③小田野城跡



②普門寺



①浄居寺城跡

- ④ 放光寺
安田義定開基。義定がここで自害したともいわれる。義定が納めたと言われる銅鐘は県指定有形文化財。
- ⑤ 伝安田義定の墓
義定一族が埋葬されたところと伝えられ、後世に造られた宝篋印塔が建つ。近くには腹切地藏尊があり、ここで義定が自害したという。山梨市指定史跡。
- ⑥ 安田氏五輪塔
やすだしごりんとう
雲光寺にある。安田義定と息子義資・義季のものと伝えられる。県指定有形文化財。
- ⑦ 伝安田義定館跡(西願寺)
でんやすだよしさだやかたあと さいがんじ
西願寺にも、かつて安田義定の館があったとされる。現在屋敷跡としての痕跡はほとんど留めていない。



⑤伝安田義定の墓



腹切地藏尊



④放光寺

ちよつとよしみち
赤芝は、養蚕が盛んであった頃の養蚕農家が多く残り、独特な景観が楽しめる。

赤芝集落
赤芝は、養蚕が盛んであった頃の養蚕農家が多く残り、独特な景観が楽しめる。

鍵懸関所跡
秩父方面から甲府を防御する重要地点であり、武田信玄の時代には関所が置かれたとされる。

西保中の若宮八幡宮
義定が勧請したと伝わる。義定の霊を慰めるため、7月晦日には夜相撲が行われた。

西保下の若宮八幡宮
義定が設けた馬場の守護神として祀ったという。

武田信光の庶子、倉科氏の居館といわれる。現在遺構はほとんど残っていない。

開基は岩手信盛。境内に墓がある。岩手氏は、武田信昌の四男縄美を祖とする。

室町時代初期、足利尊氏を開基、夢窓疎石を開山として創建されたという。禅宗様建築の仏殿は国宝。

源頼朝が社殿を造営したという。永正3(1506)年武田信縄が再興した。

境内に武田信縄の墓と伝わる五輪塔がある。

武田信虎が再建した本殿は国指定重要文化財。

祭神は天照大神と安田義定。本殿は県指定有形文化財。

源頼朝が社殿を造営したという。永正3(1506)年武田信縄が再興した。

境内に武田信縄の墓と伝わる五輪塔がある。

武田一族の活躍

- ⑩ 夕狩沢古戦場跡
ゆつかりざわでせんじょうあち
甲斐国守護武田信守の跡を継いだ信昌が、寛正6年(1465)、守護代跡部景家と戦い、勝利した地。信昌は、小田野城に景家を追い詰め滅ぼしたとされる。
- ⑪ 永昌院
えいしょういん
武田信昌の菩提寺。信昌は、永正二(1505)年に没してここに葬られた。墓所には五輪塔と宝篋印塔が残る。信昌の墓は山梨市指定史跡。
- ⑫ 大井俣窪八幡神社
おおいまたくぼはちまんじんしゃ
武田氏代々の崇敬を受け、信満・信虎・信玄などにより、社殿が建立された。本殿などが国の重要文化財に指定されている。



⑫大井俣窪八幡神社



⑪永昌院

峡東在地の武士

- ⑧ 連方屋敷
れんぼうやしき
方形の広い屋敷跡で、四方に土塁と堀が巡っている。戦国時代には、武田氏の財政面で活躍した蔵前衆が居住したとも、蔵前の庁所(役所)であったともいわれる。発掘調査によって十五世紀前半のかわらけが出土したことから、このころが連方屋敷が使用された主な時期と考えられる。県指定史跡。
- ⑨ 栗原氏屋敷跡
くりはらしやしきあと
栗原氏は、武田氏の一族であり、信虎の時代から武田氏に仕えた。大翁寺は屋敷の中心にあり、敷地の広さは周辺にある海鳥寺・妙善寺・大法寺などを含むとされる。



⑧連方屋敷